

## 議論進行を支援する ファシリテーションシステムの構築

山口 未来

近年、大学教育においてアクティブラーニングの動きが高まっている。アクティブラーニングとは、グループディスカッションなどによる従来の講義型とは異なる、課題解決型能動的学修である。アクティブラーニングでは学生が様々な情報を扱いながら主体的に問題を発見し、解決していく学修となる。しかし既存のホワイトボードや模造紙とペン、付箋を用いたグループディスカッションの方法ではアクティブラーニングのための情報収集・資料参照を活かしたディスカッションには不向きである。なぜなら既存の方法では記録の蓄積、再活用の難しさが問題とされ、インターネット上の情報探索も可能となった今、資料探索を行いながら議論をまとめるシステムが必要だからである。そこで本研究はアクティブラーニングのディスカッションに適した環境構築のためにシステムによるグラフィックファシリテーション、資料活用支援、議論の可視化を組み合わせたファシリテーションシステムを開発し、アクティブラーニングの現場での有効性を測ることを目的とする。

本システムは個人での情報収集を行う iPad mini と協働編集作業を行うフェイスアップテーブルを用いて使用する。機能として議論の流れを示し、タイムキーパーを担う「ファシリテーション機能」、グループワークで調べた web ページを URL 付きで投稿することで調べた内容の共有ができる「資料付き投稿機能」、投稿した内容を 2 次元的に移動させて編集しながらグループ化や構造化ができる「協働編集機能」の 3 つを持つ。

システムの有効性を検証するため、システム有りシステム無しの 2 種類のグループディスカッションを体験する実験を行い、システムの有無での比較を行った。実験の結果、システムの有無にかかわらず、グループディスカッション中調べた資料がいずれのグループも議論の役に立ち、議論中も遡って再度参照することがわかった。しかしながらシステムの有無の差としてシステム有りの実験の方が議論テーマの理解が出来たという人が多いという結果になり、システム有りによって調べた資料の内容を理解しやすくなったと考察できる。これはアンケートの自由記述から資料付き投稿機能によって簡易に参照可能な情報共有ができたこと、協働編集機能によって議論が可視化できて思考の整理ができたことなどが役に立った点として挙げられている点から判断した。同時に協働編集機能では黒線の描画に不便があることやファシリテーション機能での各フェーズの時間設定に資料の読み込みのための時間設定などの検討といったシステムの機能面については機能改善・追加とインターフェースの改善が今後の課題として明らかになった。

(指導教員 宇陀則彦)